

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第51回（通算第130回）定例会 会議録

- ◆日時：令和3年3月16日（火） PM7：00～8：30
- ◆場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
- ◆出席者： 36名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：00～20：30】

19：00～ 開 会

19：05～19：40 研 修

「看取りにかかわった医師のひとりごと」

講師：水本内科クリニック 水本 博章氏

19：40～20：30 意見交換と質疑応答

20：30 閉 会

【つぶやき】

●キーワード

- ・看取りは個別対応。決まった対応はではできない
- ・看取りの時期、医療や福祉関係者は「必要なことをしないといけない」が「余計なことはしない」「よけいなこと」は人それぞれ
- ・医療的なことを何もしないのも看取りの時期の医師の仕事のひとつ。
- ・本人が望まないことを、されるのは本人にとってもつらいこと
- ・意識がふつうであれば、本人の希望を基本的には確認する。非言語コミュニケーションの活用
- ・医師や関係者と患者との信頼関係ができているか。自分たちがあたりまえと思っていることを当然とおもわない。これでいいのかと自分に問いかける
- ・自分たちは向きあうだけ。亡くなったときにこたえがでる

【意見交換】

●感想

<誰に寄り添うか>

- ・亡くなる人の年齢によって看取りの感じ方が違う。家族のとらえ方も。
- ・普段支援する時には、家族が後悔しないように関わっている
- ・自分自身、救急車を呼ばない選択ができるか不安
- ・エンディングノートは有効か？
→ノートがいいのかどうかはわからないが、自分の思いはきちんと伝えておく。
- ・亡くなる人が心細い思いをしている。支援者は誰に寄り添うかを意識する
- ・誰もがいつか亡くなることを理解する
- ・認知症の人の意思決定支援
→できないとも決められないので、いろんなことを踏まえて総合的に判断。本当にできないときは家族の意向にそうしかない。
- ・独居とペットの問題がある。特にネコ。最近はペットのことも考えないといけなくなっている
- ・緩和ケアは本人の苦痛をとること。心の苦痛・家族の苦痛、両方とれるもの

<告知>

- ・告知については、状況・年齢・病気によって違う
- ・告知についてどう思うか？
→ケースバイケースだが、最近は病院で告知されることが多い。
- ・本人に告知されていない場合や家族間で意見が違う時の調整が大変
→誰の意見を尊重するのか。チームでの合意が重要。

<信頼関係>

- ・最期は関わってくれる医師によっても違うと思う
- ・経験しないとわかりにくいのが、予測して関わるしかない。自分が経験することで、声掛けの内容も変わる。
- ・病院や施設で、“最期はどうしますか？”と聞かれることがある。始めに聞かないでほしい。不安な気持ちを聞いてほしかった。
- ・信頼関係
→余計なことをしないと語りあえるような関係

<チームでの合意>

- ・事前にどのタイミングで話し合っておくのがベターか。
- ・本人の意思を話し合う、知っておくことが大切。
→伝えられる人は多いと思う。
- ・今後の選択をどうするか伝えるときに、ある医師は「どちらの方法を選んでも後悔はします」と伝えられているらしい。選択に100%はないから、そう言われるとおちつく
- ・家族と本人の距離感が難しい。人によって違う距離感を看取りに入る前に調整するようにしている

※定例会開催にあたっての感染症対策

- ・体調確認と非接触型温度計による体温測定
- ・手指消毒
- ・マスク着用
- ・定例会後の机、いすの消毒
- ・換気

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和3年4月20日（火） 午後7時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：新型コロナウイルス感染症と業務継続計画について